

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

# 無盡燈

2006年9月  
No.126



大谷大学同窓会

# 「伝統と異文化をみつめる場」

岩見 至先生にインタビュー



— 本学において、約三十七年間、教鞭をおとりいただきました岩見至先生に、尋源館にお越しただいて、お話を伺いました。

— 先生は、最初からフランス文学を研究されたのですか。

私は本学の卒業生ではないんですね。私自身は中学校を卒業したのが第二次大戦末期です。私も進学についてはどこへ行こうか、谷大へ来るか、もしくは他の所へ行くか迷いましたが、第三高等学校という旧制高校へ行きました。

それから戦争が終わり、高等学校が終わって、京大へ行きました。京都大学で何を勉強するか迷ったんです。文学にしようか、哲学にしようか迷ったりしたんです。迷ったけど哲学にしました。戦後、哲学科の最初のゼミで、その時の先生が山内得立先生でした。

戦争直後で、いわゆる生死の問題について考えてみたいと思つて哲学科へ来た人が何人もあったように思います。私は、自分の思いとしたら、永遠の真理を探るのが哲学というか、まあそんな思いもありました。それと三高二年か三年時の担任の、土井虎賀寿というちよつと風変わりな哲学の先生の影響もあつて、とにかく専攻としては哲学を選びました。

ところが、どうもヘーゲルとかカントとかね、膨大な著作もあつて大きな思想の建築がある。こんな物凄なものとはとても追いつかんと、自分の手に余ると思つてフランス哲学の方に移動しました。フランスの哲学は、デカルトもそうですし、十九

世紀末のベルクソンなんかもそうですけど、ドイツ観念論みたいに純粹思弁じゃなくて、自然科学とかそういうものも視野に入れてやるところがちよつと気に入つた。卒論は、ベルクソンの先輩ラヴェツソンだったんです。そして、京大卒業後、一応、大学院へ行くことにしたのですが、ベルクソンやその他のフランス哲学をやりたいということで、指導は野田又夫先生についたわけです。けれど、はなはだ不肖の弟子というか、山内先生に対してもそうですけれども、不肖の弟子でした。

— 大谷大学へは何時頃からお勤めになったのでしょうか。

昭和二十九年でしょうか、とにかく私が来たときには竹園了元先生がおられて、私はその手伝いという感じで一年間やりました。そして昭和三十年に、私が専任にしていた時、竹園先生は同志社へ替わられました。そしてあとを私がやっていたことになったわけです。そのころは、学生数も少なく、そして何より今と違うのは女子学生が非常に少ないということですね。クラスに女性が四、五名というような時代でしたかね。

— その頃の学生さんは勉強熱心でしたでしょうか。

その頃も、いつの時代でも同じじゃないですか。熱心な人は熱心だし、そうでない人はそうでないということになる。勉強する人はやっぱりしていたんだろうな。ある年の答案見たら、他の学生は単語がちよるちよると書いてあるくらいです。あとにフランス学士院に行った今枝由郎君なんかは、その時分にさつとフランス語の文章を作っていました。できる人はできる。ほつて置いてもというか、自分でやる人はやるわけです。僕の授業に出てた人つて、三十七年居つたから、数はたくさんあります。小川一乗君、加来一丸君、吉元信行君など。僕は語学だから一回生、二回生の時しか見てませんけど、一、二回生の時のことを忘れずということか、たまに同窓会みたいなことをやってくれるところがありまして、その筆頭が吉元君のクラスですね。

— クラブの顧問は何をされたのですか。

クラブの顧問はね、空手部と新聞部と二つ経験があります。空手部はこの間、創部五十周年の大きな記念の会がありました。今までずっと会長やつた空手部の徳野君というのは、空手部を作つたというのか、それまでもあたつたのかも知れない

ですけど、一応戦後ちゃんとした形になってやり始めたのかな。で、その時に顧問になってほしいと頼みに来たんです。それでOKしたんです。何年やったか覚えてませんが、このクラブでもそうかもしれませぬけど、若い元気のいい諸君はね、市電があった時分でしたから、市電止めたりバス止めたり。そういうことがあると顧問としては頭を下げに行かなければならないということがありました。何年かやってそれから交代して、ちよつとしてから、新聞部の顧問を引き受けました。これはあんまり長くなかったですけども。新聞部の夏の合宿ということで四国へ行ったりしました。

—先生にとって、大谷大学とはどのようなところでしょうか。

昔、私の父は大谷大学の事務へ勤めていました。いろんな意味で親子二代お世話になっていきますね。私は結局三十七年間、本学にお世話になったわけです。その間に多くの先輩、同僚、後輩などに会っていろいろ教えられた事も多かったわけですが、それに対して僕は何もしてあげられなかったというのが実感で、お恥ずかしい限りなんですけれど、学者としても、また教育の方も、私は何もしてないな……。その間にも大き

った周知の二つの事件を経験し、制度と個人の相剋と癒着を実感させられたように思います。

—最後に、大学や学生への願いなど、お聞かせ下さい。

どなたもおっしゃるんでしょう。難しい時代でこれから大学がどうなっていくのか。たとえば組織というものはやつぱり時期歳月を経ると齟齬が生じると言いますか、食い違いができたりと、そういうことがあるのが普通でしょうね。昔と違って今は学生諸君もいろいろいるだろうと思います。教職員もいろいろいるだろうと思います。まあ二つの異なる考えや感じ方を生じた時に、単に融和するって言うんじゃないに、いかにして総合的に統一していくかという事は、難しいんじゃないか、どういふふうにしたらいいか考えてみる必要は、あるんじゃないか。総合的な前進が目指されるにはどうしたら良いか。単純な答えは出しにくいと思いますが、大学としたらどういふ形がいいものなのか、皆さんが考えていかれることが大切ではないでしょうか。

単純な言い方すると、一般の教職員の方でも、つまり自分が学長だったらこういふふうにするとか、学監になったらこういふふうにするとか、

考えてみるのもたまには良いことではないかなと思います。

学生諸君への願いということでは、単純化していえば「やりたいことは一生懸命にやりなさい」ということです。とにかく、自分がやりたいことを一生懸命にやるといふことですね。それにしても、やりたいことが何もないと言う若者が多いのではないですか。ただ漫然とやりなさいと言っても、やる気は起きないでしょうしね。難しい問題ですが、自分は何がしたいかということ早く掴んでくれることを願っています。

## 生れてはじめて聴いたシャンソン 中島 都

岩見 至先生へのコメント



なかじま みやこ  
1963年卒業  
文学部史学科

昭和三十四年に入学した一、二回生の頃、先生はフランス語の主任教授でした。当時、今は亡き実父が、ひよんな事から高田市（現上越市）の市会議員に立候補しました。丁度、春休み中であつたため、名簿の作成やできる限りのお手伝いをして、再び京都に戻りました。結果は

〔略歴〕

一九二六年 京都市に生まれる  
一九五〇年 京都大学文学部哲学科卒業  
一九五二年 京都大学研究科修了  
一九五五年 大谷大学文学部専任講師  
一九六二年 大谷大学助教授  
一九六八年 大谷大学教授  
一九九二年 大谷大学退職  
現在 大谷大学名誉教授

〔論文〕

「東本願寺翻訳局目録に見える『耶穌伝について』」  
「ヴォルテールとその哲学辞典について」  
「M・ビュートル詩『炎の中』について」  
「言葉についての試論」  
「『聖ジュリアン伝』をめぐる二、三の問題」  
「クレオパトラの鼻—哲学と文学の間」  
「京都の洋学粗描」 その他

〔翻訳〕

「ハイドン」、「社会階級」（共訳）

さんざんでした。まもなく父から、涙と共に書いたであろう長いながい手紙が届きました。それを岩見先生にも読んでいただきました。ありがとございました。ある時の授業で岩見先生が黒板にサラサラとフランス語で詞を書き「次の時間はしっかりと歌えるように……」と宿題を出されました。いよいよ当日、当てられてもうまく歌える者はいません。仕方なく先生は、少々照れながら見事にシャンソンを歌ってくださいました。これが私が聴いた生涯で初めてのシャンソンでした。





# 本部報告



## 二〇〇六年度同窓会総会開催（報告）

本年度総会が五月十九日（金）午後一時三十分より、本学博綜館第一会議室において、開催されました。議長に栃木支部長 池田賢勇氏を選出し、各議案について活発な審議をい

ただき、それぞれ承認を得ました。一、二〇〇五年度事業報告及び収支決算報告（下記「収支決算書」参照）

一、同窓会活動企画推進委員会に関する件

▼二〇〇三年度より設置してあります同窓会活動企画推進委員会は、二部会制により活動されております。二〇〇五年度は、第一部会が五回、第二部会が九回、合同部会が一回開催され、今後の同窓会活動について検討が進められました。

総会では、第一部会の等岳兼昭部会長、一楽真常務理事（学内担当）から部会活動の報告がなされた後、「会報『無盡燈』への広告掲載について」「第十一回ホームカミングデ

「開催要項」が提案され、承認されました。引き続き、第二部会の織田顕祐常務理事（学内担当）から部会活動の報告がなされた後、「NPO

法人 尋源舎（仮称）の設立」が提案され、承認されました。なお、「会報『無盡燈』への広告掲載」については、第一部会において、広告掲出の募集、依頼等の具体的な方法を、「NPO法人 尋源舎（仮称）の設立」については、第二部会において、法人認可申請の具体的な手続き等を、それぞれ実現に向け今後さらに検討をすすめることとなりました。

一、二〇〇六年度事業計画及び収支予算（左記「収支予算書」参照）

2005年度 大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】		(単位:円)	
科目	決算額	科目	決算額
1.前年度繰越金	9,206,691	1.前年度繰越金	9,206,691
2.会費	36,285,000	2.会費	36,285,000
会費(1)	1,785,000	会費(1)	1,785,000
会費(2)	34,500,000	会費(2)	34,500,000
3.入会金	5,750,000	3.入会金	5,750,000
4.出版物等売上金	21,600	4.出版物等売上金	21,600
5.雑収入	215,999	5.雑収入	215,999
合計	51,479,290	合計	51,479,290

会費(1):1990年度以前卒業生の終身会費・通常会費  
会費(2):2005年度卒業生の終身会費

【支出の部】		(単位:円)	
科目	決算額	科目	決算額
1.事業費	14,587,036	1.事業費	14,587,036
本部事業費	3,328,461	本部事業費	3,328,461
支部事業助成費	5,223,730	支部事業助成費	5,223,730
同期会・OB会等開催助成費	780,000	同期会・OB会等開催助成費	780,000
学生会助成費	500,000	学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	4,754,845	新入会員歓迎費	4,754,845
2.刊行費	5,252,926	2.刊行費	5,252,926
無盡燈刊行費	4,658,416	無盡燈刊行費	4,658,416
印刷製本費	594,510	印刷製本費	594,510
3.事務費	5,964,988	3.事務費	5,964,988
本部事務局費	70,998	本部事務局費	70,998
手当	280,000	手当	280,000
通信費	5,613,990	通信費	5,613,990
4.旅費	7,741,640	4.旅費	7,741,640
5.会議費	1,443,283	5.会議費	1,443,283
6.委託費	3,004,050	6.委託費	3,004,050
7.雑費	326,530	7.雑費	326,530
8.同窓会基金への繰入支出	3,043,240	8.同窓会基金への繰入支出	3,043,240
9.出版事業積立金への繰入支出	1,000,647	9.出版事業積立金への繰入支出	1,000,647
10.同窓会活性化準備金	30,231	10.同窓会活性化準備金	30,231
11.予備費	0	11.予備費	0
12.次年度繰越金	9,084,719	12.次年度繰越金	9,084,719
合計	51,479,290	合計	51,479,290

会費(1):1990年度以前卒業生の終身会費・通常会費  
会費(2):2005年度卒業生の終身会費

2006年度 大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】		(単位:円)	
科目	予算額	科目	予算額
1.前年度繰越金	9,084,719	1.前年度繰越金	9,084,719
2.会費	35,250,000	2.会費	35,250,000
会費(1)	2,850,000	会費(1)	2,850,000
会費(2)	32,400,000	会費(2)	32,400,000
3.入会金	5,400,000	3.入会金	5,400,000
4.出版物等売上金	50,000	4.出版物等売上金	50,000
5.雑収入	221,281	5.雑収入	221,281
合計	50,006,000	合計	50,006,000

会費(1):1990年度以前卒業生の終身会費・通常会費  
会費(2):2006年度卒業生の終身会費

【支出の部】		(単位:円)	
科目	予算額	科目	予算額
1.事業費	16,105,000	1.事業費	16,105,000
本部事業費	3,800,000	本部事業費	3,800,000
支部事業助成費	5,605,000	支部事業助成費	5,605,000
同期会・OB会等開催助成費	1,000,000	同期会・OB会等開催助成費	1,000,000
学生会助成費	500,000	学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	5,200,000	新入会員歓迎費	5,200,000
2.刊行費	6,472,000	2.刊行費	6,472,000
無盡燈刊行費	5,420,000	無盡燈刊行費	5,420,000
印刷製本費	1,052,000	印刷製本費	1,052,000
3.事務費	7,030,000	3.事務費	7,030,000
本部事務局費	120,000	本部事務局費	120,000
活動費	330,000	活動費	330,000
通信費	6,580,000	通信費	6,580,000
4.旅費	8,208,000	4.旅費	8,208,000
5.会議費	1,820,000	5.会議費	1,820,000
6.委託費	3,450,000	6.委託費	3,450,000
7.雑費	550,000	7.雑費	550,000
8.同窓会基金への繰入支出	1,550,000	8.同窓会基金への繰入支出	1,550,000
9.出版事業積立金への繰入支出	0	9.出版事業積立金への繰入支出	0
10.同窓会活性化準備金	3,000,000	10.同窓会活性化準備金	3,000,000
11.予備費	1,000,000	11.予備費	1,000,000
12.次年度繰越金	821,000	12.次年度繰越金	821,000
合計	50,006,000	合計	50,006,000

会費(1):1990年度以前卒業生の終身会費・通常会費  
会費(2):2006年度卒業生の終身会費

### 支部長交代のご紹介

ありがとうございました  
よろしくおねがいいたします

〈岩手支部長〉

大石 敦彦  
(前支部長 林 正文)

### 学術振興を願い、同窓生から高額寄付を受ける

去る六月二日（金）、同窓生から大谷大学に二〇〇〇万円のご寄付をいただきました。大谷大学学部を一九三九年にご卒業され、高等学校長などを経て、真宗大谷派の修練道場長などをお務めになり、『親鸞聖人の国家観』『信の回復』『真宗を生きる』など多くの著作を残された和田稠氏のご遺族から寄付を受けたものです。ご遺族であり、ご本人も同窓生である和田究氏は「父が大学で専



攻した社会学と真宗学の学術振興、研究活動に父の遺産を役立てて欲しい」と、今回のご寄付の趣旨を語ってくださいました。



学長に目録を手渡す和田究氏

### 「同窓会うどん専用麺鉢」完成!

学生の皆さんに好評を博している「同窓会うどん」の専用麺鉢が完成し、学内食堂で利用が始まりました。「同窓会うどん」は、一食につき五十円の補助を、大谷大学同窓会が行っています。が、「同窓会から在学生に何かメッセージを送りたい」との声を背景に今回の麺鉢が製作されました。

専用麺鉢は、全体が薄い茶色で、内側には、「一. 手を合わせ声を出していただきます 二. 手を合わせ声を合せていただきます 三. 手を合わせ声を合せていただきます」というメッセージが刻まれています。

考えよ」と、メッセージが書き込まれています。

「皆さんに、とつても喜んでいただいています」とは、食堂の店長さんの感想です。



同窓会うどん専用麺鉢

### 中国(中華人民共和国)支部発足する

このたび、中華人民共和国の北京香格里拉飯店において、七月三十日大学並びに同窓会が共同して、中国帰国留学生交流会・懇親会を開催いたしました。このたびの交流会は、本学で学位を取得され、現在首都師範大学で教鞭をとっておられる孔繁志氏、並びに北京に在留研究中の本学李青先生のお骨折りと、大学で国際交流担当の教育研究支援課にお世話をいただき実現したものです。

交流会には、中国各地より十八名の出席があり、本学木村宣彰学長、藤島建樹同窓会長、河内昭圓名誉教授、校友センター平野紹寿事務部長、教育研究支援課八木孝枝課長、西澤亜紀子国際交流担当の出席がありました。はじめに木村学長の挨拶があり、「この帰国留学生交流会が今後、



大谷大学中国(中華人民共和国)同窓会

恒久的に開催され、大谷大学と中国との交流の窓口になり、更に留学生による「大谷大学中国同窓会」となることを願う」との希望が述べられました。また、藤島同窓会長から、「同窓会は母校大谷大学の応援団であり、海外支部がまだないが、今日の集いが海外支部結成の出発点となることが願いである」と挨拶がありました。

懇親会の席で、藤島会長より、同窓会中国支部の発足の提案がなされ、孔繁志氏を支部長に、李賀敏・林観潮の両氏をそれぞれ副支部長に推薦し、参加者全員の同意により中国支部が発足されました。

今後は同窓会の輪を更に広げて、教育研究面での応援団としても、益々大きな力になっていただくもの

と期待されます。

時のたつのも忘れて、和やかなうちに過ごした交流会も、次回開催を厦門(アモイ)でまた長春でと、再会を誓い合い、別れを惜しみながら散会いたしました。

### 第十一回 同窓会 ホームカミングデー案内

同窓会では、例年学園祭「紫明祭」開催期間中の土曜日に「ホームカミングデー」を開催しております。

「恩師・旧友との再会」「スタンプラリー」等を企画するなど内容を次のとおり開催します。

また、「ホームカミングデー」をゼミ・クラス同期会、学寮・クラブ等の集合日時として位置付けていただき、この機会にゼミ・クラス同期会等を開催してはいかがでしょう。お仲間をお誘い合わせのうえ、母校大谷大学にお越しください。詳細は本会報に同封しております。案内状をご覧ください。

【二〇〇六年十一月十一日(土)】

【第一部】谷大へ行こう(会費無料)

▼大谷大学

・十三時〜十五時

恩師・旧友との再会

スタンプラリー

学園祭バザー参加





2005年ホームカミングデー風景

- ・十五時～十六時  
お楽しみ抽選会
  - ひっぱって大当たり
  - ・十三時～十六時  
プレイルーム（簡単な遊具を設置）
  - ・十三時～十六時  
ホームページ閲覧コーナー
  - ・十三時三十分～十六時  
響流館自由見学
- （ネームプレートで入館可）
- \*博物館特別展「鈴木大拙没後四十年記念展 大拙―その人と学問」開催中
- 【第二部】懇親会（会費五〇〇〇円）
- ▼京都ロイヤルホテル&スパ
  - ・十七時三十分～十九時  
立食パーティー
- 以上

## 大谷大学同窓会海外研修 第11弾

# ベトナム・宗教と世界遺産を巡る研修の旅

### ～中国仏教・南伝仏教・ヒンドゥ教・キリスト教と世界遺産巡り～

会員相互の親睦と交流をはかり、校友の輪を一層広げていただくため、本会の企画による海外研修の旅を実施いたします。

前回に引き続き、東洋史をご専門とされる同窓会会長 藤島建樹名誉教授を団長に、ハノイからホーチミンへ、ベトナムを縦断しながら各種宗教寺院とハロン湾・古都フエ・ミーソン遺跡・ホイアン市内等の世界遺産を訪ねる「ベトナム・宗教と世界遺産を巡る研修の旅」を企画いたしました。

会員をはじめ有縁の方々のご参加をお待ちいたしております。どうぞお問い合わせのうえ、多数で参加ください。

- ◆旅行期間 明年1月14日(日)～1月21日(日)
  - ◆募集人員 30名(最小催行人員20名)
  - ◆旅行費用 194,000円
  - ◆申込締切日 11月20日(月)
  - ◆参加資格 同窓会員とご家族等
- ◆申込方法 旅行会社へパンフレットをご請求のうえ、お申し込みください。定員を超えた場合は、申込順とさせていただきます。
  - ◆お問い合わせ先・取扱旅行代理店  
株モントラベル  
〒550-0013 大阪市西区新町1-8-1 諏訪ビル  
TEL 06-6531-1344 (担当 四ツ井/渡辺)

### ■ベトナム・宗教と世界遺産を巡る研修の旅

月日	訪問都市	スケジュール
1 2007年 1月14日(日)	ハノイ	関西国際空港発 ハノイ着後、ホテルへ 【ハノイ 泊】
2 1月15日(月)	ハロン湾 ハノイ	海の桂林とよばれる「世界遺産のハロン湾」見学 【ハノイ 泊】
3 1月16日(火)	ハノイ フエ	ハノイ市内観光「大教会」「一柱寺」 ハノイ最古の仏教寺院の「鎮国寺(チャンクオック)」見学、またはファシティック寺(仏跡寺)見学 世界遺産の古都フエ市内観光「カイディン帝廟」 「グエン朝王宮」・「トゥードック帝廟」見学 ティエンムー寺は外観見学 【フエ 泊】
4 1月17日(水)	フエ、ダー・ナン ミーソン ホイアン	「チャム博物館」、チャンパー王国の遺跡見学 「世界遺産ミーソンの遺跡」見学後、ホイアンへ 【ホイアン 泊】
5 1月18日(木)	ホイアン ダー・ナン ホーチミン	世界遺産の街「ホイアン市内」観光 ホイアンよりダー・ナンへ、そしてホーチミンへ 【ホーチミン 泊】
6 1月19日(金)	ホーチミン、ソクチャン カントー	ソクチャン着後、「南伝仏教の寺院」見学 カントー市内観光 【カントー 泊】
7 1月20日(土)	カントー ホーチミン	水上マーケット見学後、ホーチミン市内観光 「戦争証跡博物館」 「ティエンハウ廟(華僑寺)」・「永厳寺」・「覚林寺」 「ヒンドゥー寺院」見学 「聖母マリア教会」「中央郵便局」車窓より見学 夕食後、空港へ 【機中 泊】
8 1月21日(日)	大阪	関西国際空港着 お疲れ様でした

※現行のスケジュールです。現地の事情により日程が変更になることもございますので、あらかじめご了承ください。

なお、次回以降の研修旅行を以下のように計画をいたしております。会員の皆さまには、ご予約に入れていただき、ご参加いただきますようあわせてお願い申し上げます。

- 第12弾 「中国・浄土教の足跡を訪ねて」(大同、五台山、太原<玄中寺>、西安方面) 2007年9月頃<7日間程度>
- 第13弾 「インド・仏跡巡拝の旅」(デリー、パトナ、ラージギル、ブダガヤ、ペナレス方面) 2009年1月頃<8日間程度>

## 母校の動き (2006年4月～2006年8月)

- 4/ 1(土) 【学年始・宗祖誕生日】
- 4/ 4(火) 【入学式】
- 4/ 4(火)～22(土) 【博物館春季企画展】  
「大谷大学のあゆみ 赤レンガの学舎」
- 4/ 8(土) 【若葉祭】
- 4/28(金) 【宗祖御命日勤行・講話】  
「依存症(アディクション)の当事者から頂いた力」  
滝口直子 本学教授
- 5/19(金) 【同窓会総会】
- 5/23(火) 【宗祖御命日勤行・講話】  
「ケアのコミュニティ 一タイのエイズ自助グループ」  
田辺繁治 本学教授
- 5/23(火)～ 8/ 6(日) 【博物館夏季企画展】  
「仏教の歴史とアジアの文化Ⅴ 一石窟の仏一」
- 5/25(木) 【大谷大学春季公開講演会】  
「佛像の出現をめぐって」 荒牧典俊 本学教授  
「現代日本の漢字規格」 阿辻哲次 京都大学教授
- 6/ 1(木) 【宗祖誕生会】  
「『畏敬の念』を考える」  
菅原伸郎 東京医療保健大学教授
- 6/17(土) 【教育後援会東北地区父母兄弟懇談会(盛岡)】  
【同窓会東北地区支部長会】
- 6/18(日) 【教育後援会関東地区父母兄弟懇談会(東京)】  
【同窓会関東甲信越地区支部長会】
- 6/28(水) 【宗祖御命日勤行・講話】  
「解放後の朝鮮半島と在日コリアン」  
鄭 早苗 本学教授
- 【第1回“人権問題を共に考えよう”全学学習会】  
「大学と障がい者の人権  
—視覚障がい者の大学生を取り巻く学習環境—」  
久部幸次郎 神戸市民福祉大学点訳講師  
関西学院大学非常勤講師
- 7/ 1(土) 【オープンキャンパス】
- 7/ 9(日) 【教育後援会近畿地区父母兄弟懇談会(福知山)】
- 7/12(水) 【大谷大学文藝学会公開講演会】  
《国文学》てにをは研究史の一端  
—「のべつづめ」と延約説をめぐって—  
大秦一浩 本学専任講師
- 《中国文学》和漢比較文学から東アジア比較文学  
金 文京 京都大学人文科学研究所所長
- 7/15(土) 【教育後援会信越地区父母兄弟懇談会(長野)】
- 7/16(日) 【教育後援会信越地区父母兄弟懇談会(新潟)】
- 7/18(火)～ 8/ 1(火) 【安居開講】
- 7/24(月)～ 7/26(水) 【暁天講座】  
24(月)「菩薩ということ」 兵藤一夫 本学教授  
25(火)「無量寿に生きよう」 延塚知道 本学教授  
26(水)「現世をいのる行者」 池田勇諦 同朋大学名誉教授
- 7/28(金) 【宗祖御命日勤行】  
【大谷大学奨学生証書授与式】
- 8/ 2(水)～ 9/20(水) 【夏期休暇】
- 8/ 4(金) 【オープンキャンパス】
- 8/ 5(土)・6(日) 【オープンキャンパス IN KYOTO】

# 母校だより

吉元信行先生に  
名誉教授の称号おくられる

大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上また学術上、特に功績のあった先生におくられる名誉教授の称号が、吉元信行先生(仏教学)におくられました。  
授与式は六月十五日(木)に学長室において行われました。



称号記念授与される吉元信行名誉教授

課程博士の学位を授与

本学では三月十七日、博士後期課程修了者(満期退学者含む)九名に、博士(文学)の学位を授与しました。学位取得者は、本明義樹(真宗学)、清水洋平(仏教学)、藤谷昌紀(仏

教学)、中島小乃美(仏教学)、金明珠(仏教文化)、崔恵珍(仏教文化)、安藤弥(仏教文化)、早川智美(仏教文化)、羽塚高照(国際文化)の各氏です。



学位取得された方々

京都府教育委員会と人的・知的資源交流の包括協定締結

本学と京都府教育委員会とは、去る二月二十二日、京都府庁教育委員室において、京都府教育委員会から田原博明教育長、本学から木村宣彰学長が出席し、人的・知的資源の交流における包括協定締結の調印式を行いました。

今回の協定締結は、教育の一層の充実を目指して相互の人的・知的資源の交流、活用を図り、双方の教育



効果を高めていくことを目的にしています。

今後は、児童生徒や大学生への多様な学習機会の提供、大学生による児童生徒の学校教育活動への支援協力、教員間の交流等に取り組んでいく予定です。また、二〇〇六年一月二十六日には、京都市教育委員会との間にも、同様の協定を締結していきます。



学長（左）と田原博明教育長（右）

### 短期大学卒業生に 短期大学の学位を授与

二〇〇五年十月一日から学校教育法の一部が改正され、二〇〇六年三月十七日に卒業を迎えた本学卒業生に対しても「短期大学士」の「学位」が授与されました。これまで短期大学卒業生に対しては「準学士」の称号が付与されてきました。しかし、今回の制度改正により、短期大学卒業生の位置付けが大きく変わり、大学教育の課程を修了した知識・能力

の証明として、卒業時に「短期大学士」の「学位」、そして「学位記」が授与されることとなりました。この「短期大学士」の創設により、卒業生が海外の大学に留学する場合や外国人留学生の帰国後の就職など「短期大学卒」の学歴について適切な評価を得やすくなるなどのメリットがあります。なお、従前の準学士の称号は、短期大学士の学位とみなされますが、二〇〇五年九月三十日以前の短期大学卒業生に、改めて学位が与えられることはありません。



卒業を迎えた短期大学部卒業生

### 小川早也佳さん、 勤労学生表彰をうける

去る三月十日（金）に京都市学生支援会館において勤労学生援助会による勤労学生表彰・奨学金授与式が行われ、本学からは文学科第三学年の小川早也佳さんが表彰を受けました。勤労学生援助会は、働きながら学



授与式風景

ぶ学生の支援団体として、一九六六年に設立された団体です。小川さんは、学費と生活費を日本学生支援機構奨学金と本人のアルバイトの収入でまかない、家計を助けながら学生生活を送っています。課外活動にも積極的に取り組んでおり、京都文化研究会の一員として学業と課外活動を両立し、充実した学生生活を過ごしています。このたび、その努力が評価され表彰状と奨学金が授与されました。

働きながら学業や課外活動などを両立させ、努力している勤労学生の今後の活躍が期待されます。

### 大谷大学教育後援会勤労学生 表彰奨学金が贈られる

このたび、教育後援会より勤労学生表彰奨学金が五名の学生に贈られました。この奨学金は、大谷大学教育後援会が学生支援の一環として、昨年度から新たに発足させた制度です。

この制度は、家庭からの就学援助が皆無に等しく、学費や生活費のほとんどを奨学金やアルバイトにより支弁している者で、なおかつ人物、学業共に他の学生の模範となる勤労学生に対して支給されるものです。

表彰式は、二月十六日（木）午後二時より、尋源講堂にて執り行われ、佐藤亨教育後援会会長より一人ひとりに表彰状と奨学金（八万円）が贈られ、労いと励ましの言葉が述べられました。



表彰式より

### 大和正克先生が、全国保育士 養成協議会から表彰を受ける

本年三月一日（水）、本学幼児教育科大和正克先生が、社団法人全国保育士養成協議会から会員校教職員表彰を受けられました。この表彰は、長年にわたり保育士養成校に勤務し、保育士の養成に多大な貢献をなした教職員を表彰することに、その業績を称え、保育士養成



事業の今後の発展に資することを目的としたものです。大和正克先生は、一九九九年四月より二〇〇六年三月までの七年間、本学で子どもたちを真に理解し共に生きようとする主体的な保育者の養成に尽力くださいました。



大和正克先生

大谷学会春季公開講演会開催

五月二十五日（木）午後一時より、講堂において、大谷学会春季公開講演会が開催されました。毎年、学内と学外からそれぞれ一名の講師に講演をしていただいています。本年度の講師・講題は次のとおりでした。

大谷大学教授 荒牧典俊氏

「佛像の出現をめぐって」

京都大学教授 阿辻哲次氏

「現代日本の漢字規格」

仏教学を専攻されている荒牧先生は、インド仏教思想史における佛像の出現についてのお考えから、私たちの心においての仏の意味に触れられ、心の中に仏をなくしてしまつた

現代の人々に、今一度仏を生きかえらせるためにはどうすればよいかと問いかけられました。

また、中国語・中国文化史を専攻されている阿辻先生は、「当用漢字」から「常用漢字」への変遷について、さらに人名に用いることができる「人名用漢字」について、ユーモラスなエピソードを交えながら映像を使ってわかりやすく解説してくださいました。

対外広報の成果もあつてか、学外からの参加も多く、盛会のうちに終えることができました。なお、例年どおり『大谷学報』に講演録を掲載する予定です。



荒牧典俊先生



阿辻哲次先生

宗祖誕生会厳修

宗祖誕生会が六月一日（木）午前十時から、講堂において、真宗大谷学園理事をはじめ本学名誉教授、教職員、在学生、一般来聴者約五〇〇人の参加を得て厳粛に厳修されました。本年度の記念講演は、東京医療保健大学教授 菅原伸郎氏を迎え『畏敬の念』を考える』と題して講演をいただきました。

先生は、以前より朝日新聞の学芸・宗教記者、「心のページ」編集長、論説委員などを経て現職を務められており、当日は、明治以降の国の宗教と教育の関わり方と、現在の公立学校の状態、特に「畏敬」という言葉に注目され、その言葉の意味、使われ方についてお話しいただきました。また、「畏」について宗教における意味、使われ方についても仏教とキリスト教の例を紹介いただきました。キリスト教では、「畏」は「神への畏れ」と説かれ、他の「恐れ」とは区別して用い、「畏れ」は『旧約聖書』では二六三回、『新約聖書』では二五回用いられていること、これに対し、仏教では『法華経』や『浄土論註』などに「無畏」「施無畏」と記され「畏れない」「畏れない」と説かれているなど宗教間における違いについてお話しただ

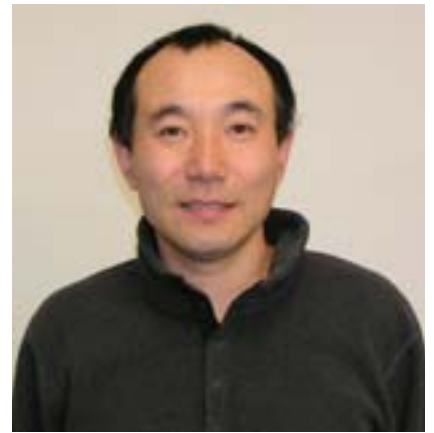
きました。



菅原伸郎先生

本学修士課程・金偉さん、中国語訳『今昔物語集』を出版

本年三月、本学修士課程（仏教文化専攻日本文化コース）第二学年の金偉さんが、中国の万卷出版公司より中国語訳『今昔物語集』を出版されました。金偉さんは、十三年前に本学に研修員として留学されて以来、令室でもある呉彦さんと協力し『日本古代歌謡集』、『今昔物語集』、『万葉集』を中国語訳されるなど日本文学の研究に励んでこられました。『今昔物語集』の中国語訳には五年間取り組んでこられ、出版に際しては新聞記事として大きく取り上げられました。中国語訳『今昔物語集』は全三冊、一五七二頁で平安時代の説話一〇〇〇話余りが収録されています。金偉さんは「日本の古典文学には、独特のこまやかな感性を感じ



本学修士課程・金偉さん

ます。

中国で出版することによって新たな日中交流の懸橋になればと思います。長い人類文明史の中で、民族間の文化交流は非常に重要な役割を果たしてきました。各民族自らの優れた文化が他民族に吸収されることによって、その文明に潜む精神的エネルギーを見出すことができます。この意味では、文字翻訳の意義は著しく重大です」と話してくれました。また本年四月二十六日(水)、金



中国語訳「今昔物語集」全3冊

偉さんの業績を祝し、尋源講堂に教員や学生約八十名ほどが集い、記念講演会が開催されました。講演会ではロバート F. ローズ大学院文学研究科長が祝辞を述べ、指導された石橋義秀教授が中国語訳『今昔物語集』の出版の意義について解説されました。講演に立った金偉さんは中国における日本文学の翻訳事業について述べられ、今回の翻訳は文章の構成や語彙などに注意をはらって行われたことなどをわかりやすく解説され、参加者一同から盛大な拍手が送られました。

### 本学卒業生が二人展「街のエロティシズム」を開催

本学文学部哲学科一九八〇年卒業生で全盲の美術家の光島貴之さんが、五月十六日(火)から二十八日(日)まで京都市下京区の大善院ギャラリ「おてらハウス」にて、二人展「街のエロティシズム」を開催されました。作品は、光島さんの友人であり画家でもある舟橋英次さんが撮影した街の写真を立体コピーし、それを光島さんが触り、感じたインスピレーションを元に創作され、今回約三〇点が展示されました。

光島さんは京都市に生まれ、先天性の緑内障のため生まれつき視力が弱く、十歳頃、失明されました。鍼



光島貴之さん(ホームページより)

灸院を開業し患者の方々の治療に励む中、舟橋さんと出会い、粘土による造形を始められ、一九九五年からは製図用の粘着式ラインテープを使って触れる絵画の制作を開始されました。公募展「98アートパラリンピック長野」では、立体部門において大賞を、平面部門では銀賞を受賞されました。また、展覧会や個展の開催、ワークショップ講師を務めるなど意欲的に活動され、独創的な世界を切り拓いておられます。

今回の二人展「街のエロティシズム」では新しい試みとして、キューブ状の立体に作品が描かれました。「大学時代に学んだキェルケゴールの実存主義が、作品の根底に流れていると思っています。でも、あまり重々しくなく、ポップな感じで表現



二人展「街のエロティシズム」

することも心がけているつもりです。声をかけていただければ、いろんなところに出かけて行って、公開制作やワークショップもしています。どこかで作品を見つけてください。とおっしゃる光島さんのますますのご活躍が期待されます。

### 「大谷大学 近隣昔の写真展」開催 現在、学生時代の写真を募集中

大谷大学では、二〇〇四年の十二月に「紫明近隣 昔の写真展」を開催しましたところ、近隣の方々に大変ご好評をいただきました。

本年も十二月に「大谷大学 近隣昔の写真展」として開催のため準備を進めています。

現在、皆様の学生時代の写真や、大学周辺地域の懐かしい写真を左記のとおり募集しております。もしご自宅に「これはどうだろう」と思われる写真がございましたら、是非ご連絡ください。皆様のご協力をお願いいたします。

#### ○募集写真

主に大谷大学を中心とする北区内の写真。特に撮影年代は問いません。



2004年紫明近隣写真展



冬の尋源館と市電(昭和49年)



大谷大学が写っているもの、学生生活を送っていた当時の様子が写っている写真（下宿等、特に北区にこだわりません）は大歓迎です。

②受付方法

大谷大学企画室までご持参いただくか、ご郵送ください。お預かりしました写真は、写真展終了後お返しいたします。

\*郵送いただく場合には、写真に関する説明（撮影場所、撮影年、撮影された状況等）を添付してください。

\*受付時間 月曜～金曜（祝日、大学の定める休日を除く） 午前九時～午後五時、上記時間外のご持参については、左記連絡先にご相談ください。

○その他

お預かりする際、お名前、連絡先等をお聞かせいただき、預り証をお渡しします。ご提供いただいた方には、大学から記念品を差し上げます。

○お問い合わせ・送付先

大谷大学 企画室  
〒603-8143

京都市北区小山上総町

（〇七五）四一一―八一一五

「館内禁煙」スタート

四月一日より、キャンパス内は「館内禁煙」になりました。

「健康増進法」の施行に伴う受動喫煙防止、防火、マナー向上の面から、本学においてはこれまで

- ① 分煙のための換気扇設置
- ② 歩きタバコ禁止の看板設置
- ③ タバコの自動販売機撤去
- ④ 保健室による喫煙有害ポスターの学内掲示やタバコ依存度チェック
- ⑤ マナーキャンペーン

などの取り組みを行ってきました。このたびの「館内禁煙」は、喫煙する人・しない人、全ての人たちがより気持ちよく過ごせる環境にするために行ったものです。喫煙する人はキャンパス内の灰皿設置場所を確認の上、指定場所で喫煙してください。

＜学内喫煙指定場所＞

●は喫煙指定場所



人 事

部局長の交代

学監兼文学部長 草野 顕之

（前学監兼文学部長 宮下 晴輝）

大学院文学研究科長

ロバート F.ローズ

（前大学院文学研究科長 大内 文雄）

短期大学部長 藤本 芳則

（前短期大学部長 築山 修道）

学生部長 一楽 真（再任）

真宗総合学術センター長 兵藤 一夫

（兼真宗総合研究所長）

（前真宗総合学術センター長 沙加戸 弘）

入学センター長 水島 見一

（前入学センター長 高井 康弘）

二〇〇六年四月一日付（各通）

館長などの交代

〔図書館長〕大内 文雄

（前図書館長 沙加戸 弘）

〔真宗総合研究所主事〕

浅見 直一郎（再任）

〔総合研究室主任〕

沙加戸 弘

（前総合研究室主任 門脇 健）

二〇〇六年四月一日付（各通）

退職・解任

\* 定年退職

〔教育職員〕

一郷 正道（教授・文学部）

吉元 信行（教授・文学部）

村上 學（教授・文学部）

大和 正克（教授・短期大学部）

岡崎 紀子（助教授・短期大学部）

\* 契約期間満了による退職

〔講師〕

杉山 正治（文学部）

藤堂 貴弘（文学部）

〔任期制助手〕

井黒 忍

伊村 大樹

岡本 敦之

小坂 美樹

清水 洋平

西本 祐攝

長谷川 慎

早川 智美

星津 香織

〔事務系嘱託〕

井上 朋子（総務部）

大槻 静（教育研究支援部）

児玉 成子（企画室）

小南 香子（教務部）

谷 佳苗（校友センター）

外村 梨佐（教務部）

中山 佳美（教育研究支援部）

山崎さつき（教育研究支援部）

山田 理恵（教務部）

〔寮監〕

安崎 洋美（自灯学寮）

小笠原智秀（貫練学寮）

〔教職アドバイザー〕

井手 健夫

二〇〇六年三月三十一日付 (各通)

\* 依願退職

〔教育職員〕

吉田 孝夫 (助教授・文学部)

二〇〇六年三月三十一日付

〔事務職員〕

安藤 三枝子 (総務部)

二〇〇六年六月三十日付

新規採用

〔教育職員〕

宮川 清司 (教授・文学部)

太田 智子 (講師・短期大学部)

大秦 一浩 (講師・文学部)

酒井 恵光 (講師・文学部)

射場美恵子 (講師・短期大学部)

森崎 礼子 (講師・文学部)

〔任期制助手〕

稲垣 淳央

小澤 千晶

神崎 宣次

斉藤 研

清水 智樹

中田英利子

藤田 義孝

三浦誉史加

〔事務職員〕

鍛冶本花露 (総務部)

兵頭 祥典 (学生支援部)

〔事務系嘱託〕

浅野由佳里 (企画室)

伊賀 亮子 (総務部)

上垣みちえ (教育研究支援部)

大久保真実 (教育研究支援部)

奥西 由佳 (教務部)

清原あき子 (学生支援部)

小松 愛子 (校友センター)

静永奈央子 (教務部)

竹中 葵 (教育研究支援部)

和田 千夏 (教務部)

〔寮監〕

福島 重 (貫練学寮)

吉田 環 (自灯学寮)

〔校医〕

明坂 治子

〔学生相談員〕

久保 聡史

佐々木玲仁

〔実習アドバイザー〕

大和 正克

二〇〇六年四月一日付 (各通)

昇格

〔教授〕

矢野のり子 (文学部)

〔助教授〕

廣瀬 幸市 (文学部)

二〇〇六年四月一日付 (各通)

堀尾孟先生を偲んで

本学文学部哲学科宗教学分野元教授堀尾孟先生が、去る四月二十四日未明六十五年の生涯を閉じられました。

堀尾先生と言えば、多くの方が、先生の研究室の一角に据えられた半畳の畳を思い出されると思います。先生が生涯を通じて打ち込んでこられた座禅のための畳ですが、在任の後半は二度も短期大学部長を務められるなど、ほとんど「座る」ことのままならないお忙しい毎日をお過ごしでした。

しかし、その一方で、岩波書店『鈴木大拙全集』の編集をはじめとする大きなお仕事を成し遂げられました。これらは、先生の深い学識はもちろんのこと、先生の穏やかで繊細なお人柄なくしては成



し得なかった偉業でありました。私事にわたって恐縮ですが、本学のホームページに付属する「哲学科ブログ」(四月二十五日)に寄せた拙文を再録させていただいて、追悼の意を表したく存じます。先生の言葉で忘れられない言葉がある。

小生に、本学とドイツのマールブルク大学との宗教学対話の仲介役が回ってきてパニック状態になっていたときのことである。

「宗教学対話なんてものは五年や十年で何とかなるものではない。何世代もかかる仕事だ。ゆっくりと大きく構えて、向き合いなさい。」

この言葉に小生は、深呼吸をした。あせりながら日々を過ごしているうちに、呼吸が浅くなっていたのである。ほとんどいつも肩で息をしていたのに気がついた。大きく深呼吸して、構えなおした。

先生のお言葉は、インターネット上に今も生きている。堀尾先生なら、きっと、「近頃は、楽に死んでおれんのやな」と大らかに笑ってくださいであるう。ありがとうございました。

本学教授・宗教学

門脇 健



二〇〇六年度  
春季課外活動結果

【団体成績】

- 卓球部(男子) 関西学生卓球連盟春季リーグ戦 IV部Aリーグ一位 五勝二敗
- 卓球部(女子) 関西学生卓球連盟春季リーグ戦 III部Aリーグ二位 四勝一敗
- 柔道部(男子) 京都学生柔道連盟京都学生柔道大会 II部五位 一敗
- サッカー部 関西学生サッカー連盟春季リーグ II部Bブロック十位 八敗一分
- 硬式野球部 京滋大学野球連盟春季リーグ戦 I部三位 六勝七敗二分
- 剣道部(男子) 西日本学生剣道大会 一回戦敗退
- バスケットボール部(男子) 京都学生バスケットボール選手権大会
- バスケットボール部(女子) 京都学生バスケットボール選手権大会

- 予選ブロック敗退 一勝一敗
- 全関西女子学生バスケットボール選手権大会 二回戦敗退 一勝一敗

●ソフトテニス部(男子)

- 関西学生ソフトテニス連盟 春季リーグ戦 V部Cブロック残留 二勝一敗

●ソフトテニス部(女子)

- 関西学生ソフトテニス連盟 春季リーグ戦 V部Dブロック四位 一勝二敗

●バドミントン部(男子)

- 京都学生バドミントン連盟 春季リーグ戦 III部残留 三勝二敗
- 関西学生バドミントン連盟 春季リーグ戦 VI部Bブロック四位 一勝三敗

●バドミントン部(女子)

- 京都学生バドミントン連盟 春季リーグ戦 I部残留 一勝四敗
- 関西学生バドミントン連盟 春季リーグ戦 III部四位 二勝三敗

●バレーボール部(男子)

- 関西学生バレーボール連盟 春季リーグ戦 V部二位 四勝三敗
- バレーボール部(女子) IV部-V部入替戦(V部残留)一敗

●バレーボール部(女子)

- 関西学生バレーボール連盟 春季リーグ戦 VI部四位 四勝三敗

【個人成績】

●空手道部

- 〈関西学生空手道連盟 個人選手権大会〉
- 「女子組手(五八kg級)ベスト十六」
- 松尾 弥生 (文学部文学科第三学年)

●硬式野球部

- 〈京滋大学野球連盟春季リーグ戦〉
- 「ベストナイン」
- 外野手 馬場 啓太 (文学部人文情報学科 第三学年)

「打撃ベストテン」

- 第六位 馬場 啓太 (文学部人文情報学科 第三学年)
- 第十位 高木 祐介 (文学部文学科 第三学年)

●陸上競技部

- 〈関西学生陸上競技対抗選手権大会〉
- 「三段跳び」
- 第八位 北條 智秀 (文学部真宗学科 第四学年)

●跆拳道部

- 〈W・A・T・A OPEN テコンドー選手権大会〉
- 「男子一般 初級フライ」
- 第三位 禿 孝宏 (文学部真宗学科 第三学年)

教育振興資金(募金)のご案内

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。本学は学校法人として「特定公益増進法人」の認可を受けており、寄付金に対しては個人・法人とも税法上の減免税措置が受けられます。

二〇〇六年二月十六日から二〇〇六年六月二十九日までの間に「寄付いただきました方々の芳名は、次のとおりです。ご支援・ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。」

◆件数 五十二件

◆寄付金総額 三三、八七〇、五〇〇円

教育振興資金寄付者(敬称略)

- 秋山 恵子 天山 敬信 伊藤 達朗
- 梅嶋 猛 大塩 亮 大橋 義孝
- 笠井 英信 梶山 嘉久 木越 渉
- 倉内 隆 小嶋 久男 小嶋 久佳
- 小山 洋 坂本 昭二 佐藤 保志
- 佐藤 幸伸 柴田 敬雄 島口 章
- メ田 信 末永 弘暢 滝本 一夫
- 田宮 経夫 手嶋 紀生 樋田 四郎
- 長田 了生 中戸 義興 中野 房俊
- 難波 明則 橋本 一哉 日野 雅範
- 藤田 薫 植野 肇 三林 寛
- 宮城 和人 森 智恵美 森本 信逸
- 梁村 秀伸 山崎 正男 山路 清治
- 山添 健夫 山根 和男 吉川 了晃
- 吉田 雅信 吉田 正彦 鷺澤 文雄
- 和田 究 匿名(一件)
- 同窓会大阪四支部
- 株式会社フラットエージェンシー

# 2006年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養をお求めの方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、21世紀をいかに生きるかをテーマとする最先端講座と切り口は多様で、そこには常にひとのこころが流れています。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

## 開放セミナーのご案内

1	テーマ	「遺弟の念力—真宗本廟(東本願寺)をめぐる仏教史—」
	講師	木場 明志(本学教授・コーディネーター)、東館 紹見(本学講師)
	開講日	10月16・23・30日、11月6日(いずれも月曜日)
	時間	17:50~19:20
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	4,000円(税込)	

2	テーマ	文学ということ①「ジェーンとバーサの物語 —[ジェーン・エア]の光と影—」
	講師	村瀬 順子(本学教授)
	開講日	10月12・19・26日、11月2・16日、12月7日(いずれも木曜日)
	時間	17:50~19:20
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	6,000円(税込)	

3	テーマ	文学ということ②「言文一致ができるまで —日本近代文学の黎明—」
	講師	天野 勝重(本学講師)
	開講日	10月18日、11月1・8・22・29日(いずれも水曜日)
	時間	17:50~19:20
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	5,000円(税込)	

4	テーマ	文学ということ③「青葉の笛 —平家から浄瑠璃へ、敦盛の軌跡—」
	講師	沙加戸 弘(本学教授)
	開講日	2007年2月8・15・22日、3月1・8・15日(いずれも木曜日)
	時間	17:50~19:20
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	6,000円(税込)	

## 紫明講座のご案内

1	テーマ	「親鸞を知る—真宗入門—」
	講師	一楽 真(本学助教授)
	開講日	12月4・11・18日(いずれも月曜日)
	時間	17:50~19:20
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	

2	テーマ	アジアを行く④「ブータンと幸福論 —宗教文化と儀礼—」
	講師	本林 靖久(本学非常勤講師)
	開講日	2007年2月17・24日、3月3日(いずれも土曜日)
	時間	14:00~15:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	

3	テーマ	「仏教経典入門」
	講師	織田 顕祐(本学助教授)
	開講日	2007年2月23日、3月2・9日(いずれも金曜日)
	時間	14:00~15:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	

## 博物館セミナーのご案内

1	テーマ	初めて学ぶ古文書読み解き講座(初級)
	講師	平野 寿則(本学講師・博物館学芸員)
	開講日	9月30日、10月14・28日、11月4・25日、12月9日(いずれも土曜日)
	時間	1講時:10:00~11:00 2講時:11:10~12:10
	定員	30名
	会場	マルチメディア演習室
受講料	12,000円(税込)	

### 【申し込み方法】

各講座とも、ハガキ、FAX、Eメールいずれかにて、講座案内を請求される場合には①氏名・フリガナ、②〒・住所、③電話番号を明記の上、下記までお申し込みください。

### 【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係

TEL:075-4111-8161(直通) FAX:075-4111-8162 E-mail:opensemi@sec.otani.ac.jp

\*講座名は変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

## 本学教員の出版物紹介

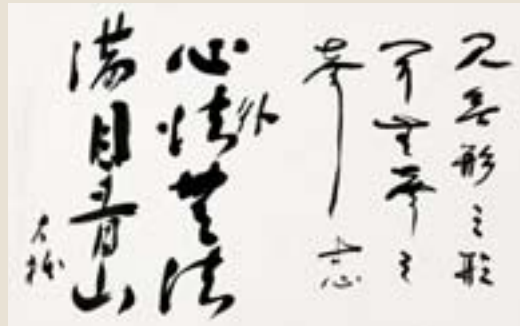
- ◎『社会福祉援助の基底—一人ひとりの「いのちの歩み」を支えるたまたみ(暁の福祉)—』  
大和正克 著 あいり出版 刊  
(二〇〇六・二) 二一六頁
- ◎『英国議会資料—資料集第一〇巻・エチオピア篇』  
(京セラ文庫) 古川哲史 編纂・解題  
国立民族学博物館 刊  
(二〇〇六・二) 六〇九頁 (CD-ROM版)
- ◎『楽しい中国語会話—初級—』  
李青・文楚雄・周宝玲 共著 晃洋書房 刊  
(二〇〇六・三) 六八頁
- ◎『楽しい中国語会話—中級—』(改訂版)  
李青・文楚雄・周宝玲 共著 晃洋書房 刊  
(二〇〇六・三) 五四頁
- ◎『社会空間の人類学—マテリアリティ・主体・モダニティ—』田辺繁治・西井涼子 編著 世界思想社 刊  
(二〇〇六・三) 四五三頁
- ◎『長崎法潤博士古稀記念論集—仏教とジャイナ教—』  
小川一乗・小谷信千代・加治洋一・宮下晴輝・箕浦暁雄・兵藤一夫・一郷正道・山本和彦・ロバートF.ローズ・吉元信行・荒牧典俊 分担執筆 平楽寺書店 刊  
(二〇〇五・一) 八六〇頁
- ◎『宗教とモダニティ』竹沢尚一郎 編  
田辺繁治 分担執筆 世界思想社 刊  
(二〇〇六・三) 二九六頁
- ◎『唯識ということ—唯識二十論—を讀む』  
兵藤一夫 著 春秋社 刊  
(二〇〇六・三) 二八〇頁
- ◎『中世宗教文学の構造と表現—佛と神の文学—』  
村上學 著 三弥井書店 刊  
(二〇〇六・四) 四二八頁



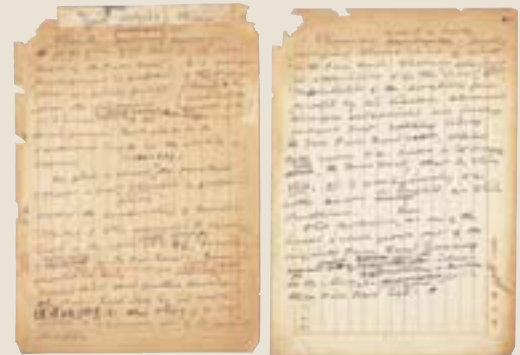
# 大乘仏教を世界に発信した仏教学者



洪嶽宗演墨跡「大拙」 松ヶ岡文庫蔵



鈴木大拙・西田幾多郎合筆書 松ヶ岡文庫蔵



英訳『教行信証』序文（未完・自筆原稿） 松ヶ岡文庫蔵



## 大拙—その人間と学問

大谷大学博物館 特別展  
鈴木大拙没後四十年記念展

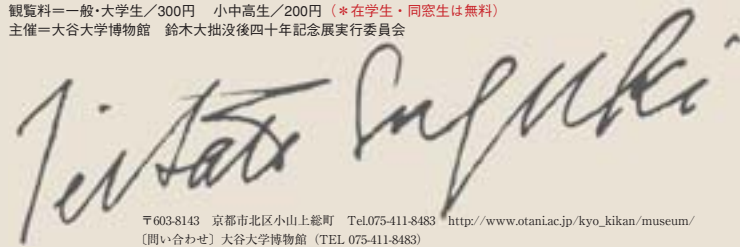
鈴木大拙（貞太郎）は1870年に金沢で生まれました。同郷の友人に西田幾多郎・山本良吉・藤岡作太郎などがおり、西田と藤岡とともに「加賀の三太郎」と称されました。その後、円覚寺での参禅期とアメリカ長期滞在を経て、大乘仏教を世界に発信した著名な仏教学者として知られます。

大谷大学へは、三代学長佐々木月樵の招きと西田幾多郎らのすすめにより、1921年教授として赴任しました。爾来四十年の長きにわたり研究に邁進して多くの重要な著作を世に送り出し、また後進の育成にあたりました。

本年は没後四十年にあたり、ゆかりの鎌倉・金沢・京都で「鈴木大拙没後四十年記念展」を開催することとなりました。京都では、大谷大学博物館を会場に、大拙の生涯を通して、その人となりと学問を紹介します。

2006年10月10日[火]—11月28日[火]

休館日＝毎週日・月曜日[但し11月26日(日)・27日(月)は開館]、11月18日(土)  
開館時間＝午前10時～午後5時、金曜日は午後7時[入館は閉館の30分前まで]  
観覧料＝一般・大学生/300円 小中高生/200円 (\*在学生・同窓生は無料)  
主催＝大谷大学博物館 鈴木大拙没後四十年記念展実行委員会



〒603-8143 京都市北区小山上総町 Tel.075-411-8483 [http://www.otaniac.jp/kyo\\_kikan/museum/](http://www.otaniac.jp/kyo_kikan/museum/)  
[問い合わせ] 大谷大学博物館 (TEL 075-411-8483)

### 記念講演 [聴講無料]

上田閑照 (京大名誉教授)



□10月13日[金] 午前10時～  
□大谷大学講堂

開学記念式典記念講演として開催します。式典終了後、講演会を開催します。

ノーマン・ワデル (大谷大学名誉教授)



マイケル・パイ (大谷大学客員教授)



□11月3日[金・祝] 午後5時～ 午後6時～  
□大谷大学響流館メディアホール

講演は日本語です。

- ◎『浄土論註』 講讀—宗祖聖人に導かれて—  
延塚知道 著 真宗大谷派宗務所教育  
部 編
- ◎真宗大谷派宗務所出版部 (東本願寺出  
版部) 刊  
(二〇〇六・五) 一六〇頁
- ◎『日本古代の写経と社会』  
宮崎健司著 塙書房 刊  
(二〇〇六・五) 六五六頁
- ◎『インド仏教遺跡・見聞録—釈尊の足  
跡を訪ねて—』  
石橋義秀 編著 真宗大谷派松香山・  
善正寺 刊  
(二〇〇六・五) 六八頁
- ◎『福祉のころ—よみがえって、生き  
る— [増補版]』  
佐賀枝夏文 著 真宗大谷派京都教区  
願生の会 刊  
(二〇〇六・五) 一五六頁
- ◎『光華叢書3 宗教の相貌 民族と宗  
教を考える』  
延塚知道・近藤十郎・畠中光亨・  
小田淑子・小野田俊蔵・加島祥造 著  
京都光華女子大学 真宗文化研究所 編  
自照社出版 刊  
(二〇〇六・三) 二七八頁
- ◎『これは教育学ではない—教育詩学探  
究—』  
皇紀夫・鈴木晶子・野口裕之・今井康  
雄・弘田陽介・小野文生 著 鈴木晶  
子 編 冬弓舎 刊  
(二〇〇六・四) 二二四頁
- ◎『人間であること』  
上田閑照 監修 皇紀夫・山田邦男・  
松田高志・吉村文男 編 燈影舎 刊  
(二〇〇六・一) 三三〇頁
- ◎『学内刊行物』  
◎『入権センター叢書 vol.2 差別落書事  
件に学ぶ』  
大谷大学入権センター 編・刊  
(二〇〇六・三) 九八頁
- ◎『学苑余話Ⅷ』 大谷大学広報編集委員  
会 編  
大谷大学 刊  
(二〇〇六・三) 一四六頁

同期会、ゼミ・クラス会、  
OB・OG会

恩師を囲んで



一郷先生退職記念パーティー (2006.2.24)  
初めての同窓会が先生の退職記念パーティーとなりました。一郷先生のお人柄がにじみ出た和やかで素敵なパーティーでした。



2001年卒業米本ゼミ同期会 (2006.2.25)  
卒業して5年ぶりの再会でしたが、皆あまり変わらず、学生時代に戻ったようでした。とても楽しいひとときが過ぎました。



吉元信行教授退職  
記念パーティー (2006.3.11)  
これまでの吉元先生のご指導に感謝の意を表し、退職記念パーティーを開催いたしました。先生を囲んでの和やかな会となりました。

村上學先生送別謝恩会  
(2006.3.25)  
村上學先生には5年間にわたり、大学院仏教文化のゼミと文学科国文学のゼミを担当していただきました。厳しい指導と温かい人間性に引かれ、多くの卒業生が参加してくれました。







2005年卒業加治クラス同期会 (2006.4.8)

久しぶりと言っても、まだ一年しか経っていませんが、カナダのこと仕事のこと彼女のことなどなど、大いに盛り上がりました。今回は急なことでしたし、連絡網に不備があって、連絡の取れない人が何人かいましたが、次回は皆で集まりましょう。



松原祐善先生追弔会 (2006.4.3)

松原先生が帰還されて、はや17年が過ぎようとしています。教え子の有志が集まって追弔会を催しました。師恩の深さを語りました。



2006年卒業加治ゼミ同期会 (2006.4.19)

優しいOBさんたちが、在学生にゼミの心構えや卒論の取り組みなど、厳しくも心のこもった指導をしていましたが、楽しいひと時を過ごすことができました。遠くから参加して下さったOBさんに感謝です。またやりましょう。



2003年卒業沙加戸ゼミ同期会 (2006.4.8)

約1年ぶりの皆との再会です。懐かしい顔を見ることができ、楽しい時間を過ごすことができました。



2001年卒業藤島ゼミ同期会 (2006.4.22)

卒業して5年ぶりの再会でしたが、皆あまり変わらず、学生時代に戻ったようでした。とても楽しいひとときが過ごせました。



2005年3月卒業佐々木令信ゼミ同期会 (2006.4.22)

1年振りに仲間で集まることができ、また先生方にも参加して頂けて、とても楽しい時間を過ごすことができました。



第20回『谷大一八会』(2006.5.18)

昭和六十一年に始めた「一八会」も今年で第二十回。齢八十を越えた十三名が集い、学生時代をなつかしみ、互いに勇気づけられました。



昭和50年卒業東洋史学同窓会 (2006.5.6)

10年ぶりの再会となりました。時間を忘れてしまうほど、近況や介護(?)の話などで楽しく過ごすことができました。





2004年卒業松川ゼミ同期会（2006.5.27）  
同期生の仲の良さには変わりはなく、参加してくれたメンバーが集まると、まるでゼミが始まる前の雑談の時間のような感じでした。



第30回浄眼洞（山田亮賢先生門下生の会）（2006.5.20）  
恩師山田亮賢先生の十回忌を記念して、何度も御講話を拝聴した懐かしの形原温泉山田館（愛知県蒲郡市）に集まりました。



後小路薫先生を偲ぶ会  
（2006.5.27）  
3月26日に急逝された後小路薫先生を偲ぶ会を5月27日午後3時30分から尋源講堂にて開催いたしました。



道交会（2006.5.27）  
昨年亡くなられた大谷前会長の追弔法要、並びに総会を行いました。部員不足と若いOBの参加が少ないのが改善点です。



暁鐘十四会 第25回例会（2006.6.2）  
昭和14年4月に大学の校門をくぐったその前での記念撮影。戦死を含め還浄せし約50名への謝徳と本会の終焉報告の法要を尋源講堂で25ヶ年の幕引とした。



昭和24年3月専門部卒業同期会（2006.5.30）  
傘寿を迎え今年には北陸路砺波野に集い世界遺産の五ヶ山を訪ね旧交を温める。身の衰えゆくこの頃であればこの歓談又格別、元気で再会を約束。



尺八部箏曲部OB・OG会 in 金沢  
(2006.6.17)

演奏会を金沢教区合唱団『蓮』と  
合同開催とし、合同演奏もした。  
30名のOB・OG。合唱団員も35名  
の参加の懇親会で盛り上がった。



大谷大学体育会  
ソフトテニス部OB会

(2006.6.25)  
今年は大谷大学体育会OB  
会発足35周年記念というこ  
とで盛大に行われました。  
来年もOGと現役生の親交  
が深まればと思います。



1976年卒大谷大学短期仏教科同窓会 (2006.7.1)

大谷大学を卒業して、早や30年の歳月を迎え、年齢も50歳となりました。  
恩師古田先生、同期の人も元気で活躍しているとのことでした。



知真学寮四期生同窓会 (2006.6.25)

知真学寮四期生のホープ、藤井信君の結婚を祝うために十数年ぶりに集まりました。  
変わらぬ友情に時を忘れ、盛り上がりました。



卓球部創部75周年 卓球部後援会発足30周年記念祝賀会  
(2006.7.1)

去る7月1日、午後1時より自主トレーニング、午後4時より  
博物館夏季企画展・図書館等見学、午後5時より物故者33名の  
追悼会、その後、会場を平安会館に移し、6時より9時過ぎま  
で総会・記念祝賀会を開催し、遠近各地からの懐かしいOB・  
OG、来賓・現役学生等60名の参加のもと、和やかな雰囲気  
のなかで互いの旧交を温め、素晴らしいひと時を過ごす  
ことができました。



大谷大学学友会 (昭和33年入学) (2006.7.18)

遠いみちのくの奥恐山に19人の学友が集い第4回目の会を開催。大間  
マグロ、大畑のイカ刺し、津軽三味線に酔いました。





2005年幼児教育科卒業同窓会 (2006.7.29)  
14名の少ない参加でしたが、久しぶりに集まって学生気分で語り合いました。また、しようね。



2005年卒業寺林ゼミ同期会 (2006.7.22)  
7月22日土曜日、大谷大学寺林ゼミの同期会を開催しました。久しぶりに先生に会えて皆とても喜んでいました。



国際文化学科山本ゼミ2005年卒業生同期会 (2006.8.4)  
卒業後、初めての同期会です。アメリカ留学中のOGもこの日のために帰国してくれました。再会を誓い合って散会しました。



第5回大谷大40年卒同窓の集い in YOKOHAMA (2006.7.31)  
昭和40年大谷大卒業の同期生仲間が還暦を迎えた時より発足して本年度で第5回目。開港150年を2年後にひかえた横浜で開催。次回は京都。



浄影会 (古田ゼミ同窓会) (2006.8.5)  
今年も京都にて古田先生を囲んで浄影会を開催。久しぶりに集まった同窓生とともに、賑やかなひと時を過ごすことができました。



1982年卒業幼児教育科  
有志代表同窓会 (2006.8.5)  
久しぶりに大学生気分に戻り、楽しいひと時を過ごすことができました。急な話でメンバーが揃わず、こじんまりとした集まりになりましたが大変盛り上がりました。来年は是非みんな揃って会えることを楽しみにしています。



2000年卒業幼児教育科Bクラス  
(藤本芳則先生) 同期会 (2006.8.6)  
今回は子連れの出席者も多く、とても賑やかな会でした。職場での保育の話や子育ての話などたくさん語り合いました。Bクラス最高!!



このたび、真宗大谷派難波別院（南御堂）の御堂筋通に面した一角に、大阪四支部から大谷大学の広報用にと、掲示板が寄贈されました。最近、「大谷大学」を知らない大阪市民が増えたことを憂えた同窓会大阪四支部からの申し出により、南御堂のご理解とご協力を得て、このほどの設置となったものです。今後は、この掲示板が活用され、大学からのメッセージを市民に伝えることにより、多くの市民に大谷大学を理解していただくことができるものと期待します。



大阪四支部

広報掲示板を大学に寄贈

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2006. 2.24	一郷先生退職記念パーティー兼第一回同窓会
2006. 2.25	2001年卒業米本ゼミ同期会
2006. 3.04	平成16年度卒業矢野ゼミ同期会
2006. 3.11	吉元信行教授退職記念パーティー
2006. 3.25	村上學先生送別謝恩会
2006. 4. 3	松原祐善先生追弔会
2006. 4. 8	2005年卒業加治クラス同期会
2006. 4. 8	2003年卒業沙加戸ゼミ同期会
2006. 4.19	2006年卒業加治ゼミ同期会
2006. 4.22	2001年卒業藤島ゼミ同期会
2006. 4.22	2005年3月卒業佐々木令信ゼミ同期会
2006. 5. 6	昭和50年卒業東洋史学同窓会
2006. 5.18	第20回「谷大一八会」
2006. 5.20	第30回浄眼洞(山田亮賢先生門下生の会)
2006. 5.27	後小路薫先生を偲ぶ会
2006. 5.27	道交会
2006. 5.27	2004年卒業松川ゼミ同期会
2006. 5.30	昭和24年3月専門部卒業同期会
2006. 6. 2	曉鐘十四会 第25回例会
2006. 6.17	尺八部箏曲部OB・OG会 in 金沢
2006. 6.25	第30期大谷大学バレーボール部OB・OG会
2006. 6.25	知真学寮四期生同窓会
2006. 6.25	大谷大学体育会ソフトテニス部OB会
2006. 7. 1	1976年卒大谷大学短期仏教科同窓会
2006. 7. 1	卓球部創部75周年 卓球部後援会発足30周年記念祝賀会
2006. 7. 1	大谷大学バスケットボール部OB・OG会
2006. 7. 1	1998年3月卒業須藤ゼミ同窓会
2006. 7.18	大谷大学校友会(昭和33年入学)
2006. 7.22	2005年卒業寺林ゼミ同期会
2006. 7.23	1990年幼児教育科卒業生同窓会
2006. 7.29	2005年幼児教育科卒業同窓会
2006. 7.31	第5回谷大40年卒同窓の集い in YOKOHAMA
2006. 8. 4	国際文化学科山本ゼミ2005年卒業生同期会
2006. 8. 5	浄影会(古田ゼミ同窓会)
2006. 8. 5	1990年卒業藤島ゼミ有志(藤島先生の古稀を祝う会)
2006. 8. 5	1982年卒業幼児教育科有志代表同窓会
2006. 8. 6	2000年卒業幼児教育科Bクラス(藤本芳則先生)同期会

『無盡燈』への

広告掲載募集!

さる五月に開催の総会において、機関紙『無盡燈』（同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会）報告ページ）に広告を掲載することが承認されました。

同窓の皆さまが、現在お務めの企業広告や名刺広告の掲載にご協力いただけますようお願い申し上げます。広告掲載料・申込方法は次のとおりです。

- ・全一段(タテ6cm×ヨコ18cm) 一〇〇、〇〇〇円
- ・1/2段(タテ6cm×ヨコ8.9cm) 五〇、〇〇〇円



・1/4段(タテ6cm×ヨコ4.4cm) 二五、〇〇〇円

申し込みは、電話、FAX又はE・メールで「大谷大学校友センター」までお申し出ください。  
TEL 〇七五・四一一・八二二四  
FAX 〇七五・四一一・八一五七  
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

なお、次回発行の『無盡燈』第一二七号から掲載開始の予定です。

# 通信

## 「ご縁で出逢った仕事」

橋本 武也

(一九八七年文学部真宗学科卒業)

今の仕事は、学生時代には想像ができませんでした。自分が福祉の仕事をするなんて。本当にご縁とは不思議なものであると思います。

大学を出てから、ある寺院で役僧を務めていましたが、ご縁があり高齢者福祉施設の相談員として勤めることになって十八年がたちました。はじめは決して今の仕事をしたくて就職したわけではなく「老い」の問題に向き合いたくて足を踏み入れました。しかし、そこには大学で学んだ仏教、とりわけ親鸞教学の実践の世界が広がっていました。就職したところ恩師である安富先生の研究室を訪れて生



にも「谷大にこそ社会福祉学をつくってください」といふ意見が、まさか本当にできるとは思いも

しませんでした。

今、この高齢者福祉に限らず福祉全般に厳しい時代に入ってきました。今、私が勤めています法人は、大正時代からの歴史があり、高齢者分野では京都でもっとも古く、草分け的な法人です。その開設の歴史を振り返ると、親鸞聖人とのご縁も深く、また、時代に先駆けて尊い取り組みをされてきた先輩方が多くおられました。初代理事長は清水寺の名誉管主、大西良慶和上で他でも多くの宗派の僧侶がかかわり、仏教精神に基づいた法人運営を行ってきています。

この混沌とした現代の福祉だからこそ仏教精神に基づいた仏教福祉が重要な道筋となると確信しています。学生時代にあまり福祉に興味がなかった私が、今、福祉の真っ只中にいますことは、本当に何かのご縁を感じずにはおれません。今後も谷大の社会福祉学分野とは大切なお付き合いをさせていただき、京都の福祉を支えていく新たなネットワークが構築されることを願っています。そのためにも当施設としてできる限りのご協力をさせていただきます。

(社会福祉法人 同和園・特別養護老人ホーム 同和園 常務理事 園長)

## ご結婚 おめでとうございます



幸せなご家庭を築かれることを  
念じ申し上げます。

( )内は最終卒業・修了年(敬称略)  
※同窓会本部掌握分

里雄	亮意(二〇〇三)	佐々木香織(一九九三)
望月	直哉	澤井 香(一九八三)
東郷	琢磨(二〇〇三)	山本 恵(一九九三)
石川	道崇(二〇〇三)	田口 恵実(二〇〇三)
杉本	正彦	谷場亜希子(一九八三)
野原	量慧(一九七三)	石田里恵子(一九八三)
永井	貴宗(二〇〇三)	松崎 朋子(二〇〇三)
濱	龍也	夏目実穂子(二〇〇三)
和田	卓也(一九九三)	安田 彩子
川越	隼	八木ちづる(二〇〇三)
掛川	顕栄	植村季史子(一九九三)
石塚	智彦	河合 翠(二〇〇三)

## 敬弔

ご生前のご功勞を偲び、  
謹んで哀悼の意を表します。  
( )内は最終卒業・修了年(敬称略)  
※同窓会本部掌握分

伊東	鏗陳	大専門(一九八三)	二〇〇五・八・三三
福島	憲俊	大学部(一九四二)	二〇〇五・〇・二七
山口	幸雄	大予科(一九四二)	二〇〇五・〇・二六
宮崎	光章	大専門(一九四四)	二〇〇五・〇・二七
三枝	松	大学部(一九五二)	二〇〇五・二・二七
源	慈紹	文学部(一九七〇)	二〇〇五・二・二四
大石	求	大専門(一九四四)	二〇〇五・二・二六
服部	行崇	文学部(一九六七)	二〇〇五・二・二〇
松村	貴志子	文学部(一九八五)	二〇〇五・二・一八
木曾	秀豊	大専門(一九四八)	二〇〇五・三・二四
田村	洋	大専門(一九四九)	二〇〇五・三・二七
関	慧夫	大専門(一九四二)	二〇〇五・三・二二
辻岡	了順	文学部(一九五二)	二〇〇五・三・二六
浅井	春洋	文学部(一九四七)	二〇〇五・三・三〇
西出	真人	文学部(一九七〇)	二〇〇五・三・三〇
天津	良一	文学部(一九六一)	二〇〇六・一・一五
高原	覚正	大学部(一九四二)	二〇〇六・一・一五

# 窓

# 同

## 「おさなごの心を忘れず歩む」 越野 清実

(一九八三年短期大学部幼児教育科卒業)

私は幼児教育科で学び、卒業後は保育士となりました。「生涯の職業」として保育士を選び、結婚後も続けたいと思っていたのですが、主人の勤務の関係でやむなく退職いたしました。

以来二十年近くを経て、現在は「美術鑑賞体験の普及」という、少々ユニークな活動をしています。美術館やギャラリーを訪ね、美術鑑賞の楽しさをお伝えし、参加者ご自身が作品や作家の魅力を発見して下さるような企画をご提案しております。その際、必ずといってよいほど「美大をご卒業ですか？」と尋ねられますので、「いいえ、私は幼児教育を学んで、保育士をしていたのですよ」とお答えします。そうしますと、みなさん一様に驚いた顔をなさいます。しかし、私の



心の内では、幼児教育と美術鑑賞体験の普及は一本の線でしっかりつながっているのです。

美術鑑賞といえますと、教養や知識が必要とお思いの方も多いと思います。事実、私もそうでしたが、私に美術鑑賞の楽しさを教えてくれた友人は、蘊蓄を聞かせることなく私を作品の前で遊ばせてくれました。そしてタイミングを見て、私が次の一步を踏みだせるようなアドバイスをくれたのです。それは内なる声に耳を澄ますきっかけとなる言葉でした。この体験は幼児教育の基本である「子どもの声を聞き、可能性を引き出す」とことと見事に重なりました。私自身が子どもに帰り、絵を通して自分の可能性を引きだされたのです。以来「私も美術鑑賞の可能性を伝えていこう」と思うようになりました。

細々とした活動で、経済的にはまだまだ自立の域には達していませんが、人の財産はたくさん頂戴しています。谷大で得た貴重な学びや交流の時間がその礎になっていることは言うまでもありません。今後とも初心を忘れず、地道に活動を続けたいと思います。

(プラスリラックス 代表)

飯居	小島	平野	井口	天野	長谷部	黒田	星谷	中嶋	龍池	藤島	藤田	野口	堀尾	黒田	清水	岡寺	後小路	藤原	貫井	寺林	岸上	富田	八幡	武田	原田	松田	旭野	熊谷	藤岡	籠宅	本多	中山	西本	篠崎	長崎	田中			
大忍	亮淳	隆	文雄	大成	流遠	研明	芳明	智亮	英寿	恵	孝義	不二男	孟	義道	龍晃	現明	薫	久	正樹	中	正暢	哲祐	憲秀	良俊	正雄	正雄	祐讓	秀磨	公司	康俊	篤美	文英	暁祥	慶秀	見竜				
大専門	大学部	大学部	文学部	文学部	大専門	大学部	短期	文学部	文学部	文学部	大専門	大学部	大学部	大学部	短期	短期	文学部	文学部	文学部	文学部	大専門	大専門	大専門	大学部	大学部	大学部	大学部	文学部	文学部	文学部	文学部	文学部	文学部	文学部	文学部	文学部	文学部	文学部	
(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九六)	(一九六)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九五)	(一九四)	(一九四)	(一九五)	(一九五)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	(一九四)	
二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	二〇〇六	
七・三〇	六・七	六・七	六・五	六・一	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・一	四・八	四・四	四・七	三・三	三・九	三・五	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三

### 後小路薫先生、ご急逝

去る三月二十六日、元本学教員の後小路薫先生がご急逝されました。ここに深甚の謝意を表し、謹んで哀悼の意を表します。



「宗教的寛容について」

今は昔、幸運にも大谷大学に職を得てはじめて大学を訪ねたとき、木立の多い校内を正門から旧尋源館と木造の講堂を左に見ながら、哲学研究室（現、聞思館）へ向う。心む風景であった。学園闘争の余韻は学生の言葉の端々にまだ感じられたが、それが学生を活気づけ、いい雰囲気をかもしていた。

だが、新米の教師にはひとつの懸念があった。大谷大学は「宗教学校」であり「浄土真宗の学場」である。そんなところに、無宗教（いわゆる「在家」）の西洋思想の研究を仕事とする者が、何の抵抗もなくいつまでいられるだろうか。

学生時代、私はある地方都市の郊外の、丘の上の教会にある学生寮に三年間暮らした。日曜日の礼拝、朝食時の福音書朗読、夕食前の賛美歌。それが条件であった。そして居たたまれずに逃げ出したのである。戦後民主主義の高揚期を過ぎ、宣教と折伏の熱気をくぐり抜けてきた者にとって、宗教は無関心でいられる事柄ではない。しかし自分なりにゆっくりと宗教に近づく余裕が欲しかったのだらう。

「真宗の学場」に勤めることになった

哲学教師にとって、「仏教の解放」を志向する大学が一個の世俗者をどこまで許容してくれるのか、不安であった。だが、大学は寛容であった。制約は一切なし。かえって心配になって、採用の際にお口添えいただいたK先生に伺うと、「真宗に敵対的な言動は控えてもらわないと困るが、あとは自由に」という忠告だった。私はこの寛大な制限内で、仮の生活基準をたてた。真宗・仏教については沈黙を守る。学生の参加する式典・宗教行事には出席する。真宗への関心は控える。これが行動の規範であった。とはいえ、式典で称名念仏の声を聞くにつけ、なにがなし違和感を覚え、自分は異分子なのだという居心地の悪さを感じてきた。しかし、この違和感こそが自分にとって異質なものである。最近では、緊張感はなくなったようである。老いて感性が鈍ったからか。それとも「真宗の学場」の雰囲気が変わり、念仏の声もまばらになってきたからだらうか。

大谷大学教授・倫理学

鈴木 幹 雄

表紙絵  
「蓮華」

80.8 × 785.0 cm の部分 二〇〇五年作

蓮や牡丹の花は、花の中でも特に美しく、華麗で豪華で花の王といつて良いほど、目を見張らせるものがあります。蓮と仏教は深い関連があります。ちなみに仏画に描かれている牡丹は、西藏や中国の、蓮のない地域で蓮の代用として描かれたことから始まっています。蓮は阿弥陀経の中では、このように見事に美しく飾られ表現されています。「極楽の池の中には車輪ぐらひの大ききの蓮華が咲いている。その青い華からは青い光が、黄色の華からは黄の光が赤い華からは赤い光が、白い華からは白い光が発せられそれぞれが美しく清らかな香りを漂わせている。」

釈尊が入滅されて以来約六〇〇年近くは人間の形としての仏像は創られませんでした。三十五歳で成道され仏陀となられた覚者を、恐れ多くて人間の形で表現できなかったのです。最初は礼拝の対象としては遺骨を奉った仏塔のみでしたが、次第に釈尊の生涯の四大事蹟、誕生、成道、初転法輪、涅槃にそれぞれ象徴的な形を表現してゆきました。誕生の象徴に蓮、成道は菩提樹または金剛宝座、初めての説法、初転法輪には法輪、涅槃は仏塔とそれぞれを象徴として造形されました。インドで釈尊の誕生の象徴である蓮は数限りないほど、これまでに彫刻や絵画で表現されてきました。汚れた泥の中からでも美しい花を開く蓮はまさに釈尊誕生の象徴としてびったりだったのでしょう。インドでは蓮と睡蓮は区別していません。サンチー第二塔の欄楯（仏界と俗界を仕切る結界にあたる石の柵）の彫刻には数多くの蓮と睡蓮をモチーフとした浮彫があります。それは二〇〇〇年以上も前に彫られたものとは思えないほど、斬新なデザインでどれひとつ同じものはありません。蓮のようにどんなに汚れた世界であっても一人一人が美しい花を咲かせたいものです。

畠中光亨（一九七〇年文学部卒）

大谷大学非常勤講師

京都造形芸術大学教授

2006年9月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部  
編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内  
電話 (075)411-8124 FAX (075)411-8157  
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。譬えば一つの燈をみながみん明るくなるが、その明りはついになくなることはない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。